

「新型コロナ感染拡大の学生生活への影響調査」の中間結果報告

2020年5月21日

学生アドボカシー・グループ

高等教育無償化プロジェクト FREE 医学生チーム

私たち高等教育無償化プロジェクト FREE 医学生チームでは、「新型コロナ感染拡大の学生生活への影響調査」を4月9日からインターネットで行い、38の大学から、224人の医学生の回答（5月14日午後9時現在、国公立18校74名、私立19校149名）がありました。現在までにわかったことは以下の通りです。

1、コロナ禍による経済被害が学生を直撃している

家計を支えている方の収入・事業・仕事への影響について、「収入が減った」と答えた学生が46.9%、「収入がなくなった」と答えた学生は4.0%でした。またアルバイトについては「バイトを生活費に使っている」と答えた学生が48.7%、「学費に」は12.5%回答しています。コロナ禍のなかで、約6割の学生が感染拡大による影響でバイト収入が「減った」(35.3%)ないし「ゼロになった」(27.2%)ことがわかりました。

さらに、特に私立の医学部の学費は年間509万円(平均)と高額であり、学生・家計の負担が一層重くなっています。以上の結果、私立・国立ともに、学生やその家族に対する経済的負担がさらに重くなっていることがわかります。

- ・親の収入減で来年の学費が払えるか心配。(東京女子医科大学 医学部・5年/世帯年収 800万～1000万)
- ・自営業で休業したため、収入が完全にゼロ(香川大学 医学部・6年/世帯年収 380万～500万)
- ・バイトがなくなり一人暮らしの生活費が足りない(筑波大学 医学部・5年/世帯年収 800万～1000万)
- ・大学からバイト自粛令が出たため辞めざるを得ず、収入がなくなった(東京女子医科大学 医学部・3年/世帯年収 1000万以上)
- ・対面でのアルバイト(塾講師)が出来なくなり、収入が減った。学費を出すのに精一杯となり貯金を崩して生活している。(東北大学 医学部・6年/世帯年収 500万～600万)

2、大学での授業、実習に大きな障害が生まれている

オンライン授業が行われる医学部は全体の87.1%と回答があり、約2割の学生がパソコンやWi-Fi環境の整備により経済的負担が増えていると回答しています。また医学部は解剖実習をはじめ座学では学べないことがたくさんあります。そのような実習について、国全体としての明確な方針は決められていません。さらに高学年は病院での実習が主となり、Student Doctorとして患者さんの問診を取ったり、手術を見学したりします。全国的な病院の実習中止の環境の中で、患者さんと接触する機会が少なくなっています。現場を知らずに医師になる学生が増え、患者さんにも悪影響が及んでしまう可能性があります。

- ・自分だけではなく両親も在宅ワークを行っており、みんなでWi-Fiを使うのでちゃんとオンライ

ン授業に参加できるか不安です。また、連絡が常にギリギリで遅く、学生がそれに振り回されているように感じられるため、なるべく迅速に対応してほしいです。(国際医療福祉大学 医学部・3年/世帯年収 わからない)

- ・実習がどうなるのか分からない。今後の大学のスケジュールが分からず、不安。(東京女子医科大学 医学部・2年/世帯年収 わからない)
- ・実習がどうなるか不安。所属する研究室での実験が中止され、今後の研究の進捗に影響が出るかもしれない(慶應義塾大学 医学部・1年/世帯年収 1000万以上)

3、国家試験への影響の不安、病院説明会や見学中止により研修病院を選ぶことに困難が生じている

大学での授業や実習ができないことによる国家試験への影響も、明確な指針は出されていません。また医学生は病院説明会や見学にいき、自分が将来働く病院を決めていきますが、相次いでそれらが中止になっています。国家試験と就職の機会が不安定になっていることから、多くの不安の声が寄せられています。

- ・院内実習再開の目処が立たず、このまま医者になれるのか不安。国家試験が例年通り行われるのか不安。(慶應義塾大学 医学部・6年/世帯年収 1000万以上)
- ・今後の就職について、先行きが不透明。見学に行こうにも大学から禁止されており行けない。将来の選択肢が狭まってしまうだろう。(東北大学 医学部・6年/世帯年収 500万~600万)
- ・病院実習が夏休みに実施されると、病院説明会に行けなくなり、将来の研修先を探す時間がない。(東京女子医科大学 医学部・5年/世帯年収 800万~1000万)
- ・実習が出来ていない、就活のための見学が出来ていない、医療現場が忙しいため各病院の就活情報が更新されない(慶應義塾大学 医学部・6年/世帯年収 1000万以上)
- ・マッチングの開始時期が延期される等の措置はなく、更に病院見学が出来ないため、マッチング登録に支障が出る。(弘前大学 医学部・6年/世帯年収 270万~380万)
- ・病院見学ができず初期研修先病院選びが難しい。(東京慈恵会医科大学 医学部・6年/世帯年収 わからない)

4、「政府や大学に対する要望」では、経済的支援をはじめ、国としての方針を策定し、学生への周知徹底を求める声が非常に強い

医学部は各大学個別の試験だけでなく、共用試験(CBT や OSCE)など全国一律の試験が多い学部です。そして一つひとつの試験が進級に関わります。また、医学部卒業が国家試験の受験資格になっているため、国家試験への影響が考えられます。

その他にも、臨床実習再開のめどが立っていないことから、国全体として今後どのような実習体制になっていくのか、方針を求める声が全国的に大きくなってきています。これらに関する国全体での今後の方針は、現状のところ学生に届いていません。

- ・マッチング、卒業試験、Post-cc OSCE、国試がどうなるのかの概要を、決まっている段階でも教えてほしい。(東北大学 医学部・6年/世帯年収 わからない)
- ・就活時期の変更、卒業延期などの措置があるのか明確にしてほしい(東京女子医科大学 医学部・6年/世帯年収 1000万以上)

- ・医学部医学科はカリキュラムが国に決められているので、大学によって対応が異なるのは不合理なので、国として指針を示してほしい。(信州大学 医学部・2年/世帯年収 1000万以上)
- ・オンライン授業で通常通りのクオリティーが担保できると思えない。それなのに、試験を通常通り行うことは現実的ではない。単位を配布する、レポートにするなど、柔軟に対応してほしい。(慶應義塾大学 医学部・4年/世帯年収 1000万以上)

多くの医学生は、医師として将来の医療を支えられるようになることを目指しています。同時にそれは国民全体の願いでもあり、それを担保する場が医学部です。今回の新型コロナウイルスの影響で医学教育や学生支援が不十分ななか、十分な知識と技術を備えた医師になるために、国全体での支援・情報提供が必要です。医学教育の質が低下することによって将来的に患者さんや日本全体に悪影響が及ぶことはなんとしても避けなければなりません。医学生を守り、将来の医療を守るためにも、国・大学・学生が互いに手を取り、この危機的状況を乗り越えていきましょう。

以上